

園芸部

7月に入り園芸種苗センターではイチゴ原種苗の増殖が最盛期となっております。

品種名	生産予定数量
とちおとめ	30,000本
ふくはる香	9,000本
ふくあや香	1,000本

1. 品種と増殖予定数量
県内主力品種である「とちおとめ」を中心に県オリジナル品種「ふくはる香」「ふくあや香」を増殖しております。品種毎の今年度増殖計画は左表のとおりです。

2. 園芸種苗センターでの増殖方法について
病気予防に向けての栽培システムは栽培に使用する培地（用土）は全て信頼できるメーカーより購入したものを使用するとともに親株は高設ベンチに定植し、ランナーを空中に発生させ、7月～9月まで採苗と挿し苗を行い、ベンチ上で栽培管理を行うため、栽培全期間を通じて、地面に株が触れることが無い育苗体系を採用しています。また、園芸種苗センターでのイチゴ原種苗生産方法の一番の特色は、ランナー発生状況の様子

3. 今年度の供給予定について
今年度は10月17日より11月18日までを出荷予定として計画しております。取りまとめは6月いっぱい終了しておりますが、8月下旬までは追加注文が可能です。受注生産となりますので、注文のお忘れのないようお願いいたします。

(3) その他の防除手法
農薬を使用する防除以外にも、挿し苗後の管理においては、溶液の肥料濃度・施肥量をコントロールし、多肥栽培をさけるとともに、適正な葉数管理を実施し、病気にかかりにくい栽培をこころがけて育苗しております。

挿し苗後の灌水方法にあり、1鉢毎に点滴スティックを鉢に挿し、そのスティックを伝って灌水する方法を採用しております。この灌水方法の採用により、水滴とともに蔓延する病気の発生予防と、蔓延防止を図っております。

(2) 農薬を用いた病害予防
予防散布に重点をおいた防除体系はもとより、親株定植前の施設の消毒、栽培器材の消毒について徹底して実施しています。また、挿し苗実施時についても、使用器材消毒を徹底して行うなど、細心の注意をもって取り組んでおります。

JAふれあい食材 おすすしミピ

鶏肉のおろしポン酢がけ

7月にお届けする材料を使用したレシピです



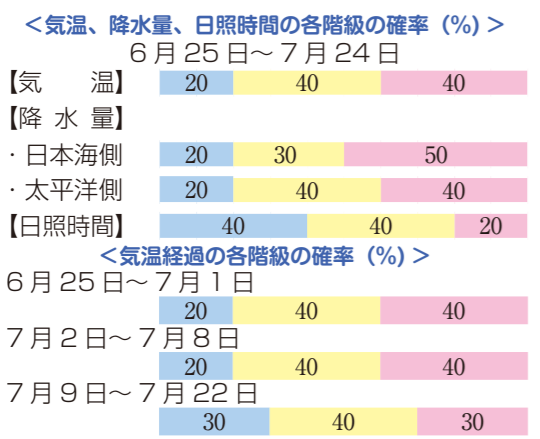
- 材料**
- 国産鶏むね肉.....200g
 - 酒.....大さじ1
 - 砂糖.....少々
 - 塩.....小さじ1/4
 - 片栗粉.....適量
 - サラダ油.....適量
 - 大根おろし.....適量
 - みょうが.....1個
 - 大葉.....4枚
 - ポン酢.....適量

- 作り方**
- 鶏肉は、7mm厚さのそぎ切りにしてボウルに入れ、酒、砂糖、塩を振りかけて揉み込む。
 - フライパンを熱してサラダ油を多めに入れ、①に片栗粉を塗ったものを焼く。
 - 蓋をして、中火で両面を焼き、火が通ったら火を弱くして少し焦げ目をつける。
 - みょうがは1mm厚さの輪切り、大葉は1mmくらいのせん切りにする。
 - ③の鶏肉を容器に盛り付け、水分を絞った大根おろしと④をのせる。最後にポン酢をかけて出来上がり。

●材料は2人分が基準になっております。
●盛付例はイメージです。
※材料の野菜がない場合は家庭にあるお好きな野菜をお使い下さい。

東北地方の長期予報

<予想される向こう1か月の天候>
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、東北日本海側で多い確率50%、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。



凡例：低い(少ない) 平年並 高い(多い)
(仙台管区气象台 発表)

今月の主な行事予定

7月1日	畜産部	第18回全農肉牛枝肉共励会
7月6～8日	生産資材部	アグリフェア2016
7月10日	管理部	福島ユナイテッドFC ホームゲーム
7月15日	米穀部	米穀事業推進委員会
7月22日	園芸部	大田市場県知事トップセールス
7月22日	燃料部	クミアイプロパン営業コンテスト
7月23日	園芸部	大阪市場県知事トップセールス
7月23日	畜産部	平成28年度「福島牛」枝肉共励会
7月26日	消費地販売部	東北6県合同キュウリビズ大田市場オープニングセレモニー

ラジオ福島 午前5時15分～25分 放・送・予・定

「農家の皆さんへ」

- 7月4日 JAライフクリエイト福島 食の安全について
- 7月5日 米穀部 営農相談室
- 7月11日 畜産部 乳牛の夏季管理について
- 7月12日 園芸部 営農相談室(夏秋果実消費宣伝)
- 7月18日 生産資材部 土づくり資材について
- 7月25日 園芸部 営農相談室(種馬鈴薯・にんにく種子の予約)

編集後記

「田んぼの生きもの調査」の取材に行きました。子供たちに生物の多様性と農業への関心をもってもらう取組みです。日差しが強く、汗がにじむ天気の中、訪れた学校で子供たちは元気いっぱい。興味津々で水田を覗き込み、裸足で入るやいなや「タニシだ!」「オタマジャクシだ!」と大騒ぎ。一方、小学校の先生の悲鳴も。「苗を踏まないで〜!」
「農家さんが一生懸命、田んぼを管理しているから、たくさん生きものが住めるんだよ。さて、ヤゴが大人になると、何になるか知っているかな?」「とんぼー!!!」
子供たちが頼もしく思えた瞬間でした。

生産資材部

平成28年度 農薬危害防止運動実施中

この運動は、農薬取締法(農林水産省所管)、毒物劇物取締法および食品衛生法(厚生労働省所管)等にもとづいて「農薬の適正な使用と保管管理、適正販売など」について周知徹底することにより、安全・安心な農産物生産、農薬使用者や家畜、ミツバチ等への危害防止」を目的とする運動です。
運動期間は、6月10日から9月10日までの3カ月間で、本県では次の3つに重点を置いた運動を展開しております。

1. 農薬散布等計画の周知の推進
2. 航空防除の安全確認の徹底
3. 農薬の適正使用の徹底

JAグループではボスターやチラシを配布するなど、農薬危害防止に努めておりますが、個々の生産者に対しては法令順守が求められ、その責任が問われる時

安全な農作物を提供していくために

農薬散布の原則

ミツバチへの被害を防ぐために

農薬散布作業は適切に

農薬使用後の後始末

記録簿と記録

記録簿・記録簿等の注意

JAグループ 農薬工業会

代になってきておりますので、この運動の趣旨をご理解いただき、安全・安心な農産物を生産していただきたいと思います。